



印旛沼も、沈水植物を含む水生植物の宝庫でした。全国的に見ても貴重な沼で、サギの仲間のサンカノゴイの繁殖地^{はんしよくち}、タカの仲間のチュウビの集団ねぐらなど、野鳥にとってかけがえのない場所です。また、オオセッカ、コジュリン等希少鳥類^{きしょう}を含む野鳥の宝庫でもあります。しかし水質の悪化による水生植物の絶滅、カミツキガメ・ナガエツルノゲイトウ(植物)などの外来種の増加が起きています。(28ページのみめ知識参照)

(5) 房総の自然・世界の自然とわたしたちの暮らし



オオルリ



ウズランギ (高島斎二氏撮影)



アカウミガメ

野外に見られる鳥たちの中には、日本と他の国を移動しながらくらししている種類もあります。(渡りと言います。28ページのみめ知識参照) そんな鳥たちにとって日本は長い旅の途中にえさをとる、たいへん重要な中継地なのです。このため、日本の干潟が一つ消えると世界の生態系に影響を与えることとなります。同じように、外国の林が消えても日本の生態系に影響があります。また、鳥だけでなくマグロもウミガメもクジラも外洋を広く回遊しています。彼らに国境はありません。したがって、「生命(いのち)のにぎわいとつながり」を保全していくことは、房総だけ、日本だけで考えていたのでは解決できない問題です。豊かな自然を保つためには、国同士で相談することも必要でしょう。

日本は食料をはじめとして、様々な資源を世界中から輸入しています。日本人が大量に消費しているエビは、東南アジアのマングローブ林を切り開いた養殖池から来ます。石けんの原料となるヤシ油の生産のためのプランテーション*が熱帯雨林を減少させています。わたしたちの生活そのものも世界とつながっていて、「生命(いのち)のにぎわいとつながり」に影響を与えているということを忘れるわけにはいきません。

*用語解説) [プランテーション] 大規模農業及びその農園。